

2

級に認定します

試験場

一年七組

氏名

模範答案

問一 解答欄

	楷書	楷書
	新	新
	緑	緑
	寒	寒
	暖	暖
	自	自
	然	然
	体	体
かな	お	お
	く	く
	の	の
	ほ	ほ
	そ	そ
	み	み
	ち	ち

問二 解答欄

未来を恐れ、失敗を恐れる人は、その活動を制限され、手も足も出ないものだ。失敗というものは別に恐るべきものではない。それどころか、以前やっていたときよりもはるか豊富な知識で、再び事を始める好機会なのだ。

フォードの言葉より

問三 解答欄

世の中にエライ人が無闇に多いと思うから、恥ずかしくなったり、極まりが悪くなるので、自分の心が高雅であると、下等な事をする者などは自然と眼下に見えるから、ちよっとも臆する必要が起こらないものさ。

夏目漱石「小宮豊隆への手紙」より

問四 解答欄

夫子膺五緯

問五 解答欄

花 ↓ くさかんむり

ロ ↓ 鳴

陽 ↓ こざとへん

里 ↓ 野

迎 ↓ しんにょう

リ ↓ 副

店 ↓ まだれ

舟 ↓ 船

2

級に認定します

試験場

一年C組

氏名

模範答案

問一 解答欄

	楷書	行書	かな
新	新	新	お
緑	緑	緑	く
寒	寒	寒	の
暖	暖	暖	ほ
自	自	自	そ
然	然	然	み
体	体	体	ち

問二 解答欄

未来を恐れ、失敗を恐れる人は、その活動を制限され、手も足も出ないものだ。失敗というものは別に恐るべきものではない。それどころか、以前やっていたときよりもはるか豊富な知識で、再び事を始める好機会なのだ。(フォードの言葉より)

問三 解答欄

世の中にエライ人が無闇に多いと思うから、恥ずかしくなったり、極まりが悪くなるので、自分の心が高雅であると、下等な事をする者などは自然と眼下に見えるから、ちよつとも臆する必要が起らないものさ。  
(夏目漱石「小宮豊隆への手紙」より)

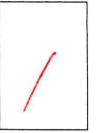
問四 解答欄

夫子膺五緯

問五 解答欄

花 ↓ ぎんかばり  
 陽 ↓ こざとへん  
 迎 ↓ しんぼう  
 店 ↓ まだれ

ロ ↓ 吸  
 里 ↓ 野  
 利 ↓ 利  
 舟 ↓ 船



級に認定します

前回までの級

乙



試験場

二年四組

氏名

問一 解答欄

あり	うた	ゝゝゝ
みよし		あゝゝ

問二 解答欄

失敗は、成功の母である。落胆と失敗は、人を確実に成功に向かわせる二つの試金石である。この二つを自発的に研究し、何か今後役に立てられることを掴み取ることができれば、これほどプラスになるものはない。

テール・カーネギーの文章より

問三 解答欄

むしろ、危険は、当然なすべき  
 懐疑をなさないで漠然たる不安の中に生きることである。我々は無用な不安の中に生くべきではない。しっかりした中核的思想を抱いて、価値ある懐疑をしなければいけない。それによってのみ問題を解決し、進歩してゆくことができる。

スピノザの文章より

問四 解答欄

巖、敏、秀、岳、横、其、基

問五 解答欄

川	太
幾	乃
比	之
加	以
利	奈

合否印

合  
否

初段 (I)

墨友硬筆部 一般五段取得

有・無

試験場

年組

氏名

問一 解答欄

9

模範答案

楷書

行書

山	山
空	空
松	松
子	子
落	落

問二 解答欄

0

關  
是  
吟  
邨  
人

問三 解答欄

△

うめをいしきくくのうめみぢれをや  
きくくのうめみぢれをや

問四 解答欄

0

自分は一番大きいのを選んで、勢  
いよく彫り始めてみたが、不幸にして、  
仁五は見当たらなかった。その次に  
も運悪く彫り当てることができなかつ  
た。三番目のにも仁五はいなかった。自  
分は積んである薪を片っ端から彫りつ  
てみたが、どれもこれも仁五を隠し  
ているのではなかった。

夏目漱石「夢十夜」より

第十五回 宮崎県高校書道展

期 日 平成三十年七月十五日(日)  
会 場 宮崎県立美術館

主 催 宮崎県高校文化連盟  
後 援 宮崎県書道協会

合否印

合  否

一般部

二段・三段(1)

受験段に○印をして下さい

試験場

三年四組

氏名

問一 解答欄

楷書	行書	草書	隸書
清風入梧竹	清風入梧竹	清風入梧竹	清風入梧竹

模範答案

問二 解答欄

為比之拙久多

問三 解答欄

作品名	時代	筆者
(1) 蘭亭序	東晋	王羲之
(2) 書譜	唐	孫過庭
(3) 風信帖	平安	空海

問四 解答欄

にくきもの。急ぐことある折に来て  
 長言するまらうと。あなづりやすき人なら  
 ば、「後に。」とそもやりつべけれど、心取づか  
 しき人、いとにくくむつかし。硯に髪の入りに  
 すられたる。また、墨の中に、石のきーきーと  
 きーみ鳴りたる。  
 (清少納言「枕草子」より)

問五 解答欄

夏河を  
 越すり水一すよ  
 手に草履

赤とんぼ

夕焼け小焼けの赤とんぼ  
負われて見たのは  
いつの日か

十五でねえやは嫁に行き  
お里の便りも  
絶え果てた

山の畑の桑の実を  
小かごに摘んだは  
まぼろしか

夕焼け小焼けの赤とんぼ  
とまっているよ  
竿の先

合否印
<input checked="" type="radio"/> 合
<input type="radio"/> 否

準師範・師範
--------

どちらかに○印をして下さい

問一 解答欄 ○

模範答案

春夜喜雨 杜甫

好雨知時節  
 當春乃發生  
 隨風潛入夜  
 潤物細無聲  
 野徑雲俱黑  
 江船火獨明  
 曉看紅濕處  
 花重錦官城

問二 解答欄 ○

試験場
年組
氏名

春夜 雨を喜ぶ 杜甫

好雨 時節を知り  
 春に当りて乃ち發生す  
 風に随いて潜かに夜に入り  
 物を潤して細かにして声無し  
 野徑 雲は俱に黒く  
 江船 火は独り明かなり  
 曉に紅の湿れる処を看れば  
 花は錦官城に重からん



試験場	年 組	氏名
-----	-----	----

問三 解答欄 △

春の穂は風に揺れた一着及び  
 空つばくらから舞う一羽の鳥

問四 解答欄  
 〈楷書〉 ○

御 祝	御 霊 前	御 見 舞
御 礼	御 祝 儀	御 中 元
寸 志	御 歳 暮	快 気 祝

〈行書〉 ○

御 祝	御 霊 前	御 見 舞
御 礼	御 祝 儀	御 中 元
寸 志	御 歳 暮	快 気 祝

合否印

合  
 否

問一 解答欄



準師範・師範

どちらかに○印をして下さい

春夜喜雨 杜甫

好雨知時節 當春乃發生  
隨風潛入夜 潤物細無聲  
野徑雲俱黑 江船火獨明  
曉看紅濕處 花重錦官城

問二 解答欄



試験場

年組

氏名

春夜 雨を喜ぶ 杜甫  
好雨 時節を知り

春に当りて乃ち發生す

風に隨いて潜かに夜に入り

物を潤して細かにして声無し

野徑 雲は俱に黒く

江船 火は独り明かなり

曉に紅の湿れる處を看れば

花は錦官城に重からん

試験場	年組	氏名
-----	----	----

問三 解答欄

妻乃種の風にゆれたる音きこゆ  
 雀つはこら亭まゝしるふらん

問四 解答欄

〈楷書〉 ○

御祝	御霊前	御見舞
御礼	御祝儀	御中元
寸志	御歳暮	快気祝

〈行書〉 ○

御祝	御霊前	御見舞
御礼	御祝儀	御中元
寸志	御歳暮	快気祝